

---

---

## 意匠委員会

委員長 布施 哲也

APAA 日本部会意匠委員会は、現在 16 名のメンバーを数え、定期的に活動を行っています。

APAA では、毎年秋に本部の総会・理事会が開催され、その間に本部意匠委員会も開かれます。本部意匠委員会は、加盟国の中から選ばれた 2～3 名の共同議長により主宰され、各国から集まった代表



本部委員会の風景 (2017年、Auckland)

により、カンントリーレポートとスペシャルトピックに関する報告、意見交換等が行われます。

カンントリーレポートは、各国におけるその年の出願件数等の統計や、主な制度改正、重要判決等を紹介するものです。一方、スペシャルトピックは、年ごとに特定のテーマを定めて、それに対して各国が自国の制度や実務状況について報告をします。意匠委員会で取り上げてきたテーマとしては、一昨年であれば「画像デザイン」、昨年は「侵害対応」、今年は「出願戦略」といった具合です。

そこで、日本部会意匠委員会では、本部意匠委員会に提出するカンントリーレポートとスペシャルトピックの回答を作成することが重要な活動となっています。また、スペシャルトピックに関しては、日本部会意匠委員会は、毎年のテーマの決定やそれに沿った各国への



本部委員会の共同議長(2018年、New Delhi)



本部委員会の集合写真(2000年、Cebu)

質問集の作成に関わることもあります。

そのため、日本部会では、主に春～夏に亘ってスペシャルトピックのテーマ決め、質問集の作成に当り、そして、夏～秋に掛けてカントリーレポートの作成とスペシャルトピックの質問集に対する回答を作成しています。

また、その他の活動として、日本の意匠情報についての寄稿や後述する韓国との合同研修会、また、種々の企画に対する参加も行っています。

日本部会の意匠委員会は、1995年(平成7年)に設立されました。初代の委員長は木戸一彦委員です。翌1996年1月には本部意匠委員会の予備会議が行われ、日本から牛木理一委員と清水徹男委員が参加しました。

そして、同11月に正式に本部意匠委員会が発足し、初代の共同議長に清水委員が就任し、活動が本格的にスタートしました。

2003年のコタキナバル総会の本部委員会では、



第1回本部委員会の日本委員(1996年、台北)

翌年の福岡理事会の開催を盛り上げるため、日本部会の各委員が積極的に宣伝活動を行い、福岡のアピールをしています。

その間、日本部会の意匠委員長は、2000年に矢崎和彦委員が就いた後、2001～2002年は中川裕幸委員が務めました。さらに、2003～2007年に矢崎委員が意匠委員長として再登板しています。

この頃から、本部での年次委員会では、事前にカントリーレポートの配布が行われ、会議の場では、スペシャルトピックを中心に議論がなされるスタイルとなり、日本部会でもその対応が活動の中心となりました。

その後、本部委員会では、共同議長が清水徹男委員から青木博通委員にバトンタッチされ、また、参加国も増えてきました。

2000年代の本部委員会でのスペシャルトピックのテーマを見ると、意匠の類似や意匠の特徴についての記載といった原則的なものから、タイプフェイ



本部委員会の参加者(2004年、福岡)



本部委員会に参加の日本委員(2006年、高雄)

ス、機能的意匠、二次元意匠、スペアパーツといった、従来に取り上げられなかったテーマへと広がりを見せています。また、意匠と商標、意匠と著作権の関係についても取り上げられるようになりました。

2009年には本部委員会の共同議長に水野みな子委員が就任します。水野委員はそれまでの本部意匠委員会での活動を通じて知己も多く、各国代表による議論をより活発なものにしました。

同時期の日本部会では、意匠委員長を光野文子委員が務め、また、長らく渡邊徹委員がカンントリーレポートの作成を担当し、本部委員会に参加しました。この時期の日本部会の意匠委員会では、上記委員の他、川村恭子委員、齊藤純子委員、櫻木信義委員、恩田誠委員、西村雅子委員などが活動しています。

その後、日本部会委員長に齊藤純子委員が就きましたが、2015年に齊藤委員が本部委員会の共同議長に就任する展開となり、再び光野委員が委員長を1年間務めました。そして、2016年から布施が委員



本部委員会の集合写真(2011年、Manila)



日韓合同研修会(2016年、釜山)

長を務めています。

2010年代のスペシャルピックを見ると、審査と補正の関係や複数意匠1出願等の手続き的な話題もあれば、新規性喪失例外や調査、出願戦略、侵害対応等の実務上の悩みどころに関するものもあり、幅広く展開しています。

2014年からは、韓国部会との間で、商標委員会と共に合同研修会が行われています。日韓で交互の開催として、これまで東京、ソウル、東京、釜山、札幌の順で行われており、スペシャルピックに関する意見交換や知財に関する最新情報の共有、また、相互交流に一役買っています。

近年は、松井宏記委員、正木美穂子委員、穂坂道子委員、水野祐啓委員、副田圭介委員等の加入があり、今後はさらに組織としての体制の整備や任務の遂行を果たしながら、より有意義な活動を目指すところです。

以上



本部委員会に参加の日本委員(2015年、沖縄)